

【研究主題】

パフォーマンス力の向上によって自信をもって発表する児童の育成
～ループリック・タブレットの活用・目的意識のある活動の設定を通して～

【主張】

本研究を通して目指す児童は、「自信をもって発表することができる児童」である。学習指導要領外国語科の目標に「(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と明記されている。他者に配慮しながら話すためには、相手の理解を表情や仕草を確かめたり、必要に応じて言語以外の情報を表出したりする必要がある。そこで、発表のモデルとなる型から児童とともに発表のループリック(評価基準)を決める。また、話し手が聞き手を意識しながら発表する方法としてタブレットを活用する。本研究では、単元のゴールに目的意識のある活動を設定することで相手を明確にし、よりよい発表の姿(パフォーマンス力)をループリックとした。タブレットのさまざまな機能を活用しループリックによって振り返ることで、パフォーマンス力が向上し、自信をもって発表する力を獲得できると考えた。

<手立て1>児童と作るループリック(評価基準)
<手立て2>タブレットの活用(スライド機能、カメラ機能、音声入力機能)
<手立て3>目的意識のある活動の設定

1 研究主題設定の理由

外国語科においては、話す・聞く・書く・読むなどの力をバランスよく育成していかなければならない。また、学習指導要領に書かれているコミュニケーション能力の素地を小学校の段階で育成するためには、子ども自身が英語を使いたくなるような課題や活動を設定しなければならない。

今までの活動を振り返ると、コミュニケーション活動や発表の場面では、決められたフレーズを使って英語で会話をしたり、発表したりすることはできた。しかし、児童の活動の様子から聞き手を意識したコミュニケーションや発表ではなく、一方的に伝えたり必要な情報だけを聞き出しただけの活動が多かった。

そこで、本研究では、目的意識のある活動を単元のゴールに設定する。具体的なゴールの姿をいくつか示し、よりよい発表に必要な要素(パフォーマンス力)を考えさせることで、児童とともにループリックを作成する。また、タブレットに搭載された映像や音声の入力再生機能も併せて活用する。

これらの手立てを行うことによって、パフォーマンス力が向上し、自信をもって発表することができる児童が育成されることが考えた。

2 研究仮説

目的意識のある活動の中で、タブレットの機能を活用しながら、自分の発表の様子をループリックを使って振り返らせる機会をもつことで、パフォーマンス力が向上し、自信をもって発表することができるであろう。

本研究における「目的意識」とは、「相手を意識した活動が明確な状態で、自分の役割を果たそうとする意識」と定義づけた。

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

【手立て1】目的意識のある活動の設定

HOP(学習内容の見通し)、STEP(JUMPに向けた言語や知識の習得)、JUMP(まとめの活動)のJUMPのところで目的意識のある活動を設定する。HOP、STEPで培ってきたことをJUMPの発表場面で生かす単元構成を進めていく。目的が具体的で、伝える相手が明確になることで自分の役割を果たそうとする意識をもって単元に取り組んでいくことをねらう。

【手立て2】児童と作るループリック(評価基準)

どのような発表がより相手に伝わりやすいかを考えさせるために、いくつかの発表動画を提示する。児童は見比べることで、相手により相手に伝わりやすい発表には何が必要かを考え、それらをループリックの評価項目、基準に盛り込んでいく。そうすることで主体的なループリックの作成を促す。

【手立て3】タブレットの活用(スライド機能、カメラ機能、音声入力機能)

胎内市では、chrome bookのタブレットを使用している。本研究において、タブレットのスライド機能・カメラ機能・音声入力機能の3つを活用する。特に、スライド機能では、スライドに写真や文字を載せて、自分の伝える内容のツールとして活用する。

(2) 研究方法

令和4年度6年生(30名)、令和5年度6年生(31名)に対して、本研究仮説に基づく実践を行い、以下の点から手立ての有効性を検証する。

- ① 児童の発言や活動の様子(令和4年度...抽出児A児、令和5年度...抽出時B児)

- ② 振り返りの記述内容の変容
 - ③ 授業実践前後のアンケートの変容
- <抽出児>A児、B児...外国語の学習には意欲的であるが、人と関わったり発表したりすることについては自信がなく、自己評価も低い。

4 授業の実際①

(1) 実践 I (令和4年度6、7月実施) ※実践 I の概要は資料 1

- i) 単元名 「Crown Jr.6 Presentation1 1 「This is our school」 (全8時間)」
- ii) ねらい 胎内市のおすすめの場所について、スライドを使いながら紹介することができる。
- iii) 手立ての検証

【手立て1】 目的意識のある活動の設定

本単元では、「今年新しく来たALTに胎内市のおすすめの場所を紹介しよう」という活動を設定した。新しく胎内市にきたALTをゲストティーチャーとして招き、胎内市のおすすめの場所やその場所でできること、おすすめする理由を伝える活動を行う。

ALTビデオレターからを自分自身の好みに関することを3つ（自然が好き、食べるのが好き、スポーツが好き）について話してもらおう。そうすることで、児童は自分たちの知識を活用して、ALTの好みにかう胎内市の場所や施設はどこがいいか主体的に考え、胎内市のことを知ってもらいたいという目的が生まれることをねらう。

【手立て2】 児童と作るループリック (評価基準)

単元の始めに、どのような発表がより相手に伝わりやすいかを考えさせるために、過去の発表をいくつか提示する。児童は見比べることによって、上手な発表に必要な要素や工夫を考え、よりよい発表には、大きな声や抑揚、ジェスチャー等が大事であることに気付く。このようにして児童と教師が話し合いながら評価基準を設定し、ループリックを完成させていく。タブレットで撮影した自分の発表を、ループリックを使って評価し、自身のパフォーマンス力を高めていく。

【手立て3】 タブレットの活用 (スライド機能、カメラ機能、音声入力機能)

1 スライド機能の活用

胎内市のおすすめの場所を紹介するために、スライドを作成した。このスライドには、紹介したい場所の写真や英単語を載せたりして、より理解するための手助けのツールとして扱う。

2 カメラ機能の活用

カメラ機能では、自分がどのように発表しているのかを客観的にみるために、発表の様子を撮り合う活動を行う。子どもたちは撮影された動画を班で見ながらループリックの評価基準をもとに振り返り、よりよい発表になるには、どこを改善したり、どのような工夫をしたりしたらいいかを考える。

3 音声入力機能の活用

発表において、まず児童が心配することは正しい英語で発音できているかである。そこで、ドキュメントの音声入力機能を使って、自分が作成した英文を正しく話すことができているのかを確認する。今回は4文程度の内容になり、一文ずつ練習し、正しく言えたことで自信を増し、次のステップへ進めていきたい。

(2) 実践 I の成果

- ・ 本単元のループリックの達成度 (教師の見取り)

	相手の気持ちを考えて話すこと	ジェスチャーをつけること	アイコンタクトをすること
6時間目 (31名)	16名	16名	13名
8時間目 (28名)	24名	26名	24名

※8時間目は3名が欠席だったため、28名となった。

ループリックを使って、自分たちの発表を振り返ったり、発表を工夫したりした結果、最後の発表の場面では多くの児童が評価基準を達成することができた。声の抑揚やジェスチャー等、パフォーマンス力の向上がみられた。

- ・ 児童の発表に対する意識の向上

本単元実践前と実践後のアンケートより「あなたは外国語の授業で発表に自信はあるか」

	1 とてもある	2 ある	3 あまりない	4 ない
本単元実践前 (30名)	14名	11名	3名	2名
本単元実践後 (30名)	21名	7名	2名	0名

抽出児の実践後の振り返りから「意識したことはとにかく楽しそうにやることです。暗い声や暗い顔ではなく、明るい声や明るい顔で話す相手がいい気持ちが伝わるからです。」や「発表して気付いたことはやっぱりジェスチャーって大事だなと思いました。ジェスチャーがあると見ている方も楽しく見ていられたと思うからです。CC先生も楽しく見てくれていてよかったです。」と、発表の相手について触れた記述が見られた。

(3) 実践Ⅰの課題

- ・ ルーブリックの評価の尺度の甘さ
本実践のルーブリックの内容では、曖昧な言葉を使っていたため、統一した自己評価ができなかった。今後は、評価基準と尺度を明確にしたルーブリックを提示しなければならない。
- ・ 発表内容面の充実
本実践では、発表する工夫に意識が向きすぎてしまい、発表内容までいかなかった。本来であれば、相手のリアクションに応じて話したり、質問を受けてやり取りをしたりする力を伸ばさなければならなかった。

5 授業の実際②

(1) 実践Ⅱ（令和5年度6、7月実施）

- i) 単元名 「Crown Jr.6 Presentation1 1 「This is our school」 (全7時間)」
- ii) ねらい 胎内市・佐渡市・きのと小学校のおすすめの場所や行事について、スライドを使いながら紹介することができる。
- iii) 手立ての検証

【手立て1】目的意識のある活動の設定

本単元では、「他校のALTに胎内市や佐渡市、きのと小学校のおすすめの場所や行事を紹介しよう」という活動を設定した。昨年度のALTをゲストティーチャーとして招き、胎内市や佐渡市、きのと小学校のおすすめの場所や行事について、おすすめする理由などを伝える活動を行う。なおALTが1学期で退職するに伴い、新潟での特別な思い出を作りたい思いも伝えた。

【手立て2】児童と作るルーブリック（評価基準）

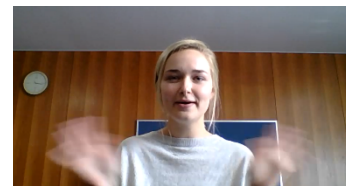
発表原稿が完成した後に、より相手に伝わりやすい発表の工夫は何かを考えさせるために、昨年6年生の1回目の発表と最後の発表を見せた。その発表を見比べて伝わりやすい工夫について考えさせた。

【手立て3】タブレットの活用（スライド機能、カメラ機能）

実践Ⅰより、スライド機能とカメラ機能は継続して行う。音声入力機能については使用せず、カメラ機能で録画した発表を見ることによって、自分の発表していることが聞き取れるかを確認させるようにした。

(2) 実践の概要

- ① 単元のゴールの設定（1・2時間目）◇目的意識のある活動の設定
実践Ⅰ同様に、ALTのCC先生から届いたビデオメッセージを児童に見せた。児童はCC先生の好みに合った胎内市や佐渡市、きのと小学校の場所や行事等を紹介するという目的意識が生まれた。また、「事情により母国へ帰るため、この夏休みに思い出を作りたい」というエピソードも伝え、より目的意識をもたせた。発表内容が決定した班から原稿作りを始めた。



(ビデオメッセージの様子)

子)

- ② ルーブリックの作成（3時間目）◇児童と作るルーブリック
今回は「声の大きさ」、「ゆっくり話す」、「アイコンタクト」の3つの観点を設定した。また、

それぞ

れの観点を三段階評価（ABC）で表したルーブリック **（※資料2）** を作成した。観点のレベルが上がるほど、○の数が増える形にしたり、C評価の項目の内容はネガティブな表現ではなく、「△△すれば、

□

□になる」という前向きな評価にしたりして、コミュニケーションへの意欲を失わないようにした。

- ③ スライド作り（4時間目）◇タブレットの活用

タブレットのスライド機能を活用し、自分たちが紹介したいことをまとめた。抽出児のいる班では、胎内市の乙地区を中心とした内容にしていた。



- ④ スライドを使って発表練習（5時間目）◇タブレットの活用 ◇児童と作るループリック
初めてカメラに向かって発表練習を行った。作成したスライドをもと

に、

班で分担したところをそれぞれの担当した人が発表した。抽出児Bは撮影した映像を見ると、声が小さかったり、視線が下を向いてアイコンタクトがきていなかったりしていた。ループリックでも、声の大きさ以外は自己評

が低かった。班での話し合いでは、相手を見て発表することやジェス

チャー

を加えることをするため、残りの時間で練習に励んでいた。

観点	チェック内容	7/6	◎
声の大きさ	ペアの人に聞こえるくらいの声の大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の奥の人にも聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の後ろの人まで聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゆっくり話す	もう少しゆっくり話せば、内容が分かるようになる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、おおよその内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、だいたいの内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アイコンタクト	もう少し相手を見て、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ほぼ顔を上げて、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ジェスチャーをつけて発表している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ネタ笑い	相手を笑わせる工夫を取り入れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

で
価



カメラをきんとみて発表できなかったので、相手をみて発表できるようにがんばりたいです。

アイコンタクトに関する記述

1回目の発表練習では、視線が終始おぼつかない様子であった。ジェスチャーがなく、ただ発表内容を伝えるものになっていた。

1回目のループリックの結果（抽出児B）
ゆっくり話すの評価はA、声の大きさ、アイコンタクトの評価はCであった。

- ⑤ 発表のリハーサル（6時間目）◇タブレットの活用 ◇児童と作るループリック

前回の反省を踏まえて2回目の発表練習を行った。抽出児Bのいる班は、アイコンタクトすることとジェスチャーを加えることの他に、聞いている相手を楽しませるアクションを加えることになった。ループリックの評価が良くなっている通り、3つの観点の向上が発表の質の向上につながっていた。また、聞いてもらう相手を楽しませる意味で、ジェスチャーや楽しませる要素が加わったことで、発表に対するモチベーションも上がっている様子がうかがえた。



自分からわざとジェスチャーをして、よかったです。

ジェスチャーに関する記述

抽出児B：「We have Tarafukutei in Tainai」のところでは、班全員で食べるジェスチャーを加えた。声の大きさが大きくなってきた。

2回目のループリックの結果（抽出児B）
声の大きさとアイコンタクトの評価がBに向上した。
ジェスチャーと笑いの項目に○もついた。

観点	チェック内容	7/6	7/3	◎
声の大きさ	ペアの人に聞こえるくらいの声の大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の奥の人にも聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の後ろの人まで聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゆっくり話す	もう少しゆっくり話せば、内容が分かるようになる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、おおよその内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、だいたいの内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アイコンタクト	もう少し相手を見て、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ほぼ顔を上げて、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ジェスチャーをつけて発表している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ネタ笑い	相手を笑わせる工夫を取り入れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- ⑥ 発表会（7時間目）◇目的意識のある活動の設定◇タブレットの活用◇児童と作るループリック

単元のゴールであるゲストティーチャーを招いての発表会を行った。初めて会うALTに緊張した様子であったが、今まで積み上げてきた発表をすることができた。本番では、学級全体で盛り上がり、ALTからのリアクションがあったりしたことで、よりよい発表をすることができていた。



3回目のループリックの結果（抽出児B）
…すべての項目でA評価をつけた。

観点	チェック内容	7/6	7/3	7/3	◎
声の大きさ	ペアの人に聞こえるくらいの声の大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の奥の人にも聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	教室の後ろの人まで聞こえるくらいの大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゆっくり話す	もう少しゆっくり話せば、内容が分かるようになる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、おおよその内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発表を聞いて、だいたいの内容が分かる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アイコンタクト	もう少し相手を見て、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ほぼ顔を上げて、発している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ジェスチャーをつけて発表している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ネタ笑い	相手を笑わせる工夫を取り入れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 実践Ⅱの成果

- パフォーマンス力の向上
1回目から3回目までにルーブリックの○をつけた数の学級の平均は次のようになった。
1回目…6.5個、2回目…8個、3回目…9.5個
この結果から、回数を重ねるごとにパフォーマンス力が向上していったことが分かった。
- 児童の発表に対する意欲の向上
本単元実践前と実践後のアンケートより「あなたは外国語の授業で発表に自信はあるか」

	1 とてもある	2 ある	3 あまりない	4 ない
本単元実践前(30名)	14名	8名	8名	0名
本単元実践後(30名)	26名	4名	0名	0名

この結果から、本研究を通して、自信をもって発表をすることができるようになった児童の数が増えていることが分かった。

- 自己評価に適したルーブリックの有効性
自分たちの姿を客観視するためのタブレットのカメラ機能、そしてその姿を繰り返し自己評価できるルーブリックはよりよい発表を作り上げていくことに有効であった。また、今後は他者評価、相互評価ができると、さらにより手立てとなる可能性がある。

(4) 実践Ⅱの課題

- 自己評価の限界
評価基準に合わせて自己評価してきたが、やはり人によって評価の度合いは変わってくる。よって、同じ班から他者評価も含め、評価の仕方については検討が必要であった。
- ルーブリックの継続的な活用
今回扱ったルーブリックによって自己評価する力がついてくることが分かった。このルーブリックを繰り返し活用することで、よりよい発表の工夫の精度が上がるだけでなく、それぞれの学習内容に合った観点も生み出されてくることが予想される。新たな観点で新たな評価をすることで、よりよいコミュニケーションの手段やパフォーマンス力を獲得することが考えられる。
- 外国語の能力の向上
パフォーマンスに焦点を当てていたため、外国語の言語材料や発表内容については決まった言葉での発表で終わり、深めることができなかった。今後は、そういった点も改善していきたい。

7 参考文献

- 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」
- 株式会社ストリートスマート&できるシリーズ編集部(2020)「できるGoogle for Education」
- 新潟大学附属新潟小学校初等教育研究会(2021)「GIGAスクールに対応した全教科・領域の授業モデル」
- イーディーエル株式会社(2021)「小学校・中学校Google Workspace for Education で創る10X授業のすべて」